我が国における心理的援助要請に関するメタ分析 (3)

性差に関する検討

○永井智¹・水野治久²・木村真人³

(1 立正大学心理学部・2 大阪教育大学教育学部・3 大阪国際大学学生相談室)

キーワード: 援助要請、メタ分析、性差

A meta-analysis of predictors of help seeking behaviors III

Satoru NAGAI¹, Haruhisa MIZUNO² and Masato KIMURA¹¹ Faculty of Psychology, Ritssho University, ² Faculty of Education, Osaka Kyoiku University,³ Student Counseling Center, Osaka International University)

Key Words: help-seeking, meta-analysis, gender difference

【目的】

本研究では、援助要請に関連する4領域の要因(水野・石限, 1999)のうち、デモグラフィック要因に注目する。援助要請に関連するデモグラフィック要因のうち、最も主要な変数は援助要請者の性別であり、援助要請は一般に、男性よりも女性の方が高いとされている(水野・石限, 1999)。先行研究におけるメタ分析によれば、専門家への援助要請に対する態度(Nam, Chu, Lee, Kim, & Lee, 2010)やサポートを求める行動(Tamres, Janicki, & Helgeson, 2002)は、多くの国において、男性よりも女性の方が高いことが明らかになっている。

しかしながら我が国においては、援助要請の性差が、援助要請の対象などによって異なる可能性も指摘されている(e.g., 永井, 2010)。そこで本研究ではメタ分析を用い、援助要請の性差について検討を行う。

【方法】

水野・木村・永井(2014)によって得られた194件の論文から、援助要請と性別との関連を検討しており、かつ分析に使用可能な情報が掲載されている論文20本を抽出した。

本研究では男女における援助要請の差を明らかにすることから、効果量には標準化された平均値差であるCohenの d を用いた。男女の記述統計が記載されているものについては、記述統計から d を算出し、記述統計を記載せず男女間の差の検定結果のみを掲載している論文については、統計量とサンプル数に基づいて d を算出した。性別をダミー変数として援助要請との相関を算出している論文については相関係数を d に変換し、分析に用いた。

【結果と考察】

分析の結果、援助要請意図($d=.30$, 95%CI=.26~.33, $k=11$, $n=13289$)と被援助志向性($d=.27$, 95%CI=.14~.41, $k=6$, $n=1084$)は、女性の方が男性よりも高かったが、専門家への援助要請に対する態度には、性差がみられなかった($d=.09$,

95%CI= -.05~.23, $k=3$, $n=821$)。

また、援助要請意図の性差を援助要請の対象別に分析すると、友人($d=.38$, 95%CI=.34~.42, $k=6$, $n=9891$)および家族($d=.31$, 95%CI=.24~.38, $k=4$, $n=3103$)への援助要請意図は女性の方が男性よりも高かったのに対し、教師($d=.05$, 95%CI= -.03~.12, $k=2$, $n=2517$)および専門家($d=.02$, 95%CI= -.04~.08, $k=8$, $n=4339$)への援助要請意図における性差は見られなかった。

このように、援助要請は概ね女性の方が男性よりも高いことが示された。これは、諸外国における結果と一致するものである。しかしながら、専門家への援助要請に対する態度、教師および専門家への援助要請については、性差は見られなかった。このように、援助要請の性差は、友人や家族などインフォーマルな対象には見られるものの、教師や専門家などのフォーマルな対象に対しては見られないと考えられる。

しかしながら、インフォーマルな対象への援助要請は、そもそも援助要請に関する得点の平均値が非常に低いことも多い(e.g., 水野・石限・田村, 2006)。そのため、こうした分布の偏りによって、性差が検出されない可能性も考えられる。したがって、インフォーマルな対象への性差については、今後研究方法を工夫するなどしたうえで、更なる知見の蓄積が必要であると考えられる。

【引用文献】

- Nam, S. K., Chu, H. J., Lee, M. K., Lee, J. H., Kim, N., & Lee, S. M. (2010). A meta-analysis of gender differences in attitudes toward seeking professional psychological help. *Journal of American College Health*, **59**, 110-116.
- Tamres, L. K., Janicki, D. J., & Helgeson, V. S. (2002). Sex differences in coping behavior: A meta-analytic review and an examination of relative coping. *Personality and Social Psychology Review*, **6**, 2-30.

Table 1 援助要請の性差における統合の結果

	k	サンプル数			統合された効果量				
		男	女	合計	効果量(d)	標準誤差	95%下限	95%上限	z
援助要請意図	11	6485	6804	13289	0.30	0.02	0.26	0.33	16.84 ***
友人	6	4827	5064	9891	0.38	0.02	0.34	0.42	18.79 ***
援助要請意図(対象別)	4	1458	1645	3103	0.31	0.04	0.24	0.38	8.53 ***
教師	2	1313	1204	2517	0.05	0.04	-0.03	0.12	1.16
専門家	8	1999	2340	4339	0.02	0.03	-0.04	0.08	0.76
被援助志向性	6	546	638	1084	0.27	0.07	0.14	0.41	4.03 ***
援助要請に対する態度	3	439	382	821	0.09	0.07	-0.05	0.23	1.24